

# 誘われたら逃げてでも断ろう 藤山中で薬物乱用の防止教室

薬物の恐ろしさを伝える田中さん  
(提供)



藤山中(海頭巖校長、397人)のこのほど、

「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」が開かれた。宇部ライオンズクラブ(羽立芳弘会長)会員が講師を務め、全校生徒に危険な症状や依存性を説明し、「誘われたら、逃げてでも断ろう」と呼び掛けた。

同クラブが、青少年健全育成活動の一貫として、同様の教室で講師を務めるのは初。羽立会長、渡邊竜也幹事と共に学校を訪問した、会員でLCC

(西宇部病院院長)が講義した。

田中さんは近年、全国で若年層に覚せい剤や幻覚剤、大麻、危険ドラッグが浸透し、社会問題化していると警告。「いずれも使用により、異常に強い快感、爽快感、興奮、陶酔感を生じる。脳の仕組みで精神依存が起こり、いったん乱用をしてしまうと、やめることが大変になる」と、決して不用意に近づかないよう念押しした。

ネットには間違った情報がたくさん載っている

「ことも注意点に挙げながら、それぞれの薬物による症状の具体的な特徴を示した。若者は友人や身近な人から誘われることが多い」と、「常日頃から自分に合った断り方を考えておこう。自分を守るうそは、ついても大丈夫。頭が真っ白なときは、走って逃げよう」とアドバイスした。

宮田望君(2年)は「薬物乱用は身近にあり、自分には無関係だと思わないうことが大切だと感じた。もし誘われても、はつきりと断る勇氣と強い意志が必要だ」と感想を語った。  
(岩本)

宇部日報  
掲載記事  
2017.10.5